

堺行基の会 会報

第43号 平成29年6月15日

平成28年10月23日堺市民祭参加の公開講演会開催

本会が主催し堺市と堺文団連が後援する講演会が、10月23日東文化会館フラットホールで開催された。

吉田会長司会のもと、若井副会長が「行基と僧尼令」、森副会長が「雇役民と行基」の題で発表を行った。講演後、発表者と聴衆のあいだで活発な質疑応答が行われた。



若井副会長

発行 堺行基の会
事務所 堺市中区毛穴町462-8
TEL 〇七二―二七二―五九七二
吉田方



森副会長

平成28年11月27日史跡巡り記録
「大阪市内巡り」

牧野みづほ

早朝から雨模様の日でしたが大降りにはならず、史跡地近くにバスを停めてもらえたので濡れて困ったということもなく、楽しいバス旅行でした。

堺市三国ヶ丘駅前から観光バスに乗り、まず向かったのが大阪市東住吉区矢田7丁目の阿麻美許曾（あまみこそ）神社です。

祭神はすさのをの尊・天兒屋根命。事代主命の三柱だそうです。

ここには、もと行基さんが住んでいたという伝承を持つ寺がありました。しかしこの寺は明治の神仏分離の際に廃寺になり、今は伝承だけが残りしました。昭和31年に建立された「行基菩薩安住之地」と刻む石碑が残っていました。

神社は大和川の南側にあるのです



が、松原市ではなく大阪市東住吉区矢田の地番です。隣接地の松原市天美という地名は神社名の阿麻美に由来するそうです。

次の訪問地は土地の人が行基さんの墓という場所です。

バスは大和川にかかる行基大橋を渡り、東住吉区矢田富田町墓地に向きます。橋は全長208^m、幅員20^m以上の立派なもので、昭和53年の完成です。

この地を大和川が流れるようになったのは1704年の付け替え工事以後の事だから、行基さんはこの橋とは全く無関係なのです。

大阪市がこの橋を建設した際、住民の要望を聞いて行基大橋の名称を採用したのでしょう。近くには東住



吉行基橋郵便局もあります。東住吉区矢田の一带は、現在でも行基伝承が残るだけでなく拡大している土地といえます。

ここで印象深かったのは、墓地に立つ行基さんの墓石といわれる「行基菩薩千年忌記念碑」が、たくさんの献花で囲まれていたことです。富田町墓地では、住民の方々が行基さんのお墓と信じる記念碑に大勢お参りに来ている様子がうかがわれました。墓地から道路を隔てた所にある矢田小学校はもと行基池があったところだそうです。池は江戸時代の文書にも記された灌漑池で、昭和40年代に埋め立てられたそうです。

矢田富田町墓地を訪れる住民の方たちにとって、行基さんは、今も身近な存在であるのだらうと思いました。バスは北へ向かいます。

天王寺区逢坂町の一心寺と安居神社は道路を隔てた筋向いにありました。

一心寺は骨仏寺として有名です。鎌倉時代の法然上人が開基された浄土宗の寺ですが、納骨する人の宗派を問わず、納骨されたお骨で仏像を作って供養されています。

大阪夏の陣で討ち死にした徳川方の本田忠朝の墓があります。本田忠朝は酒を飲みすぎて失脚したので酒封じを祈願する人のお参りが多いということでした。「真田の抜け穴」と言われる井戸跡があるそうです。

安居神社は、祭神が少彦名神・菅原道真公です。大阪夏の陣で豊臣方の真田幸村隊と徳川方の福井藩松平忠直隊が激しく戦い、幸村が討ち死にした場所だと伝えられています。「真田幸村公」の銅像と「真田幸村戦死の地」の碑が建っていました。



昼食は鶴橋駅前の韓流市場にある「茶母(たぼ)」で、本格的な韓国料理を頂きました。

毎回、史跡巡りの昼食は豪華で楽しみなのです。量が多かったので食べきれない方もいたようで、昼食時間は一時間半にもなりました。鍋の種類や飲み物が選べるというのも楽



しく、テーブル内での会話も弾みました。

昼食後は、環状線を南に生野区桃谷の御幸森天神宮へ向かいます。ここは生野韓流タウンの入り口です。道路は韓流タウンに来た人々で大賑わいです。祭神は仁徳天皇・少彦名命・忍坂彦命だそうです。



この辺りは古代に港があった所だ
 そうで、百済からの渡来人が多く住
 んでいたといえます。百済から来た
 王仁(ワニ)博士の歌碑があります。
 王仁博士は行基さんの祖先にあたり、
 その先は前漢王朝をたてた劉邦につ
 ながるそうです。

五世紀の応神天皇の時代、中国古
 典学・漢学の教師として来朝し、千字



文と論語を伝えました。

日本に帰化し、その子孫は西文(か
 わちのふみ)氏として朝廷に仕え、河
 内西琳寺のある羽曳野市一帯に住み
 着き栄えました。

博士の作という難波津の歌を和
 文・ハンブルで書いた石碑が建って
 いました。石碑は近年の建立です。こ
 の難波津の歌は、競技かるた大会の
 序歌として詠まれていたそうです。

王仁博士の「難波津に咲くや木の
 花冬ごもり、今は春べと咲くやこの
 花」の歌は、万葉集の「安積山影さえ
 見ゆる山の井の、浅き心を我が思わ
 なくに」との歌とともに、奈良・平安
 時代、子供に文字を教えるときの教
 材として使われたそうです。

最終地は境内に真田の抜け穴があ
 る天王寺区三光神社でした。祭神は
 天照大神・月読命・素戔鳴命です。

一六四四年大阪冬の陣で戦場にな
 った真田丸があった所と云われます
 が、実際の真田丸は現在の明星学園
 敷地辺りであろうとされています。



一心寺や三光神社の抜け穴はどこ
 へ続いていたのでしょうか？

真田幸村・豊臣秀吉が生き抜いた
 戦国時代からあったのでしょうか？
 そんなことを考えながら吉田先生の
 説明を聞いていました。

大阪市内の史跡巡りは、行基さんが

活躍された時代だけでなく、王仁博士が渡来した応神天皇時代にさかのぼり、万葉の世界にまで入って歴史を学ぶことができた有意義な一日でした。企画から下見見学を行い調整して下さった担当役員の方々に感謝します。有り難うございました。



11月史跡巡り参加者名

大川法子・加藤孜子・小室孝子・仙波恒民・谷口康子・多和マリ子・鳥居俊作・中野彦英・中野博之・西井幹雄・中井国芳・中井千恵・西野明美・東野信吾・牧野みづほ他
1・南山明弘・宮本和・吉田靖雄・若井敏明・和田広三

平成29年1月22日学習会の記録

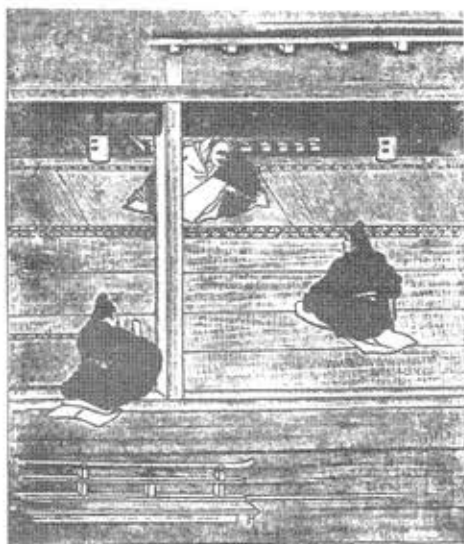
場所 JR堺市駅前サンスクエア

「道鏡（〜772）とその学問」

吉田靖雄

不義不忠の悪人観

道鏡（〜772）はかつて皇位を望んだ不義不忠の悪人の代表とされ、小学校でも教えられた。昭和10年『尋常小学国史』には



和氣清麻呂の神を敬ぶを申しあげ

「行基は諸国を旅行して、いたるところで寺を建て、道を開き橋をかけ、

池を掘り、船つきを定めなどして、大いに世の中の利益をおこしたので、人々からたいへんうやまわれた。けれども一方には、道鏡のやうな心のわるい僧も出た」と記している。行基の清僧と対比し悪僧とし、また道鏡の欲望を退けた和氣清麻呂の忠義と対比し不忠の徒とする。

道鏡について現在の小・中学校では教えられていない。

道鏡肖像画から見えるもの

さて「和氣清麻呂」と題する絵画がある。これは、昭和8年明仁親王（現在の天皇）誕生を記念し、一流画家による国史絵画の出版が企画され、17年に78点が完成したその内の一点である。

清麻呂が宇佐八幡神の「無道の人」は掃い除けよ」という神託を称徳天皇に奏し、道鏡が怒っている場面である。

天皇は簾の中でみえないから、道鏡と清麻呂の対決が主題である。しかし清麻呂は後姿で目鼻立ちがわず



かにわかるほどに描かれるのに対し、道鏡はほぼ正面から描かれる。道鏡は目鼻立ちのはっきりした面貌で、首が太く骨柄の大きい人物に描かれている。

これを見ると、題は「和氣清麻呂」であるが、じつは道鏡が主題のように感じられる。道鏡にしる和氣清麻

呂にせよ想像画であるが、道鏡は日本第一の悪人とされていたから、画家は道鏡の肖像画を描くのを嫌がったであろう。これは非常に珍しい作例といえる。

画家の長谷川路可氏は道鏡を大悪人と思っていなかったのだろう。むしろ好意的に見ていたのではないだろうか。

道鏡終焉の地の栃木県では、道鏡を地域の仏教普及に貢献した人物と評価する人が少なくないと聞く。

後段で述べるように、道鏡は日本密教の理解と普及に少なからず貢献した人物と評することができると思う。

密教を修めた山林苦行者

道鏡は若年時にどのような仏教学・修行をしたのだろうか。『七大寺年表』に、道鏡は大和葛城山に籠り如意輪観音法を修め、苦行を重ねた。孝謙上皇が近江保良宮（石山寺近くにあった離宮）で療養した際、道鏡は召された。宿曜秘法を修めて治療したとある。

大和葛城山は大阪府と奈良県の堺にある山で役行者・行基らが修行した修行場でもある。葛城の峰々には葛城〇〇社と称する神社が列する神聖な場所であった。960年の標高は麓の集落に食料衣服を求めるとにむつかしくない立地であり、修行場であった。

如意輪観音法・宿曜法は密教系の修法であり、道鏡は真言・陀羅尼の誦習を中心とする密教の修法者であったとみられる。

763年の正倉院文書を見ると、道鏡禪師の命により、四種の孔雀王呪経・二種の十一面神呪経・陀羅尼集経などの写経の準備が行われている。この文書から、道鏡が孔雀明王・十一面観音に関する密教修法を予定していたことが分かる。

真言・陀羅尼の誦習

道鏡没時の772年、『続日本紀』は「梵文にわたり禅行をもつて聞えたり」と評した。梵文とは古代インドの文章語であるサンスクリット語を意味

する。この梵文で表現されたものが真言・陀羅尼である。日本では浄土真宗を除きすべての宗派で真言・陀羅尼が唱えられている。

般若心経の末尾に「ギャテイ・ギャテイ・ハーラギャテイ・ハラソウギャテイ・ボウジイ・ソワカ」とある。

この陀羅尼は仏の悟りの聖なる内容であるから、修行のできた者にも秘密に伝えるもので、翻訳してはならないものとされる。そうした信仰上の制約がとけて翻訳されるようになったのは近代のことであった。

右の陀羅尼の訳は「ゆけるものよ、ゆけるものよ、彼岸にゆけるものよ、悟りよ、いやさか」(坂内龍雄『真言陀羅尼』)となる。

雑密教と純密教

800年代初め、密教は空海と最澄によつて日本へ導入されたとされている。

しかし道鏡の事例が示すように、密教の初歩的理解と真言・陀羅尼の誦習は700年代後半に始まっていた。

この奈良時代の密教を雑密教といひ、空海・最澄以後の密教を純密教といひ、そうした呼称は空海・最澄いごの密教者が自分たちの教法の純粹たることを誇示したことから生まれた。純密教では、大日如来の教えが金剛手菩薩↓達磨掬多↓善無畏↓玄超↓恵果↓空海と継承されたが、雑密教では道鏡の事例のように師匠・弟子の名前が不明であり、故に教えが不純であるという。

道鏡は有名なわりに資料が少なく著作もないので、学問・人物に不明な点が多いが、再評価が必要な人物であると思う。

弓削(ゆげ)寺・由義(ゆげ)宮

『続日本紀』には765年(弓削寺、由義宮の記事が見える。称徳女帝は道鏡のみならずその出身である弓削氏一族をも優遇した。弓削寺と由義宮には国費が投入されて、壮麗に建設されたであろう。その遺跡は八尾市弓削町・東西の弓削町の辺にあるらしいが、まだ発見されていない。

学習会終了後、2月19日の新聞によると、八尾市教委は、東弓削町遺跡で大量の奈良時代瓦片とともに一辺20cmの基壇を発見し、弓削寺塔の基壇であり塔は七重であったと発表した。弓削寺・七重塔と断定するには資料不足とする論があるが、新資料として注目したい遺跡である。

天智智子(あまのちか)の御本(みほん)が六月七日

(七六三)

法師道鏡

編集後記 過去2年間会報発行が年1回しかできず残念でした。なんとか2回発行するよう努めます。 吉田

会員の研究紹介 加藤孜子氏は、お住いの松原市に伝わる民話を収集し研究しています。ここで収集した民話の一端を抜粋して紹介します。行基研究にはさまざまの方法があることが分かります。

(吉田)

加藤孜子

下高野街道の昔話 11

行基民話―守り抜いた阿坂の墓

河内には、河内七墓といつて行基さんが造ったという墓(共同墓地)がたくさんあります。松原市我堂では、たくさんあります。松原市我堂では、この地に住む人達は誰も皆、行基さんの墓地に入りたいと願っています。

ところがこの大切なお墓が堺市と松原市の二つに分けられることになりました。

松原の人達は驚き、どうしてもお墓は我堂の人達で守らねばならないと一致団結し、連日のように村内で話し合い、また堺のお墓の関係者と話し合いました。

その頃松原の人々は、行基さんのお墓で火葬につくことは大切な事でした。そして行基さんの教えを守り丁寧に生きてきた人達ばかりでした。八月十三日頃に墓参りをしますが、昔は歩いて七墓を、廻っていたようです。そうして行基さんを大切に、行基さんの墓地が我堂の人達を守っているのだと生きてきた人達だから、行基さんの墓地を二つに分ける事などとても出来ない事でした。そこでどの人も真剣に向かい合って、我堂の人達は心を一つにして、墓地を守り抜こうとしたのです。

そして堺市に入った墓地は浅香、松原市の墓地はそのまま阿坂となり、漢字が違うのはその為だそうです。

下高野街道の昔話 12

行基民話―行基さんのくすり

むかしの人は草や木に名前を付けるのが上手でした。秋になると田畦に薄紫の楚々とした姿形をしたヨメナの花が咲きますが、和泉から堺辺

りまでの人達はこの花を「よしな菊」「よしなの涙」といつて、よしなが狐と見破られ、泣く泣く信太の森へ帰る時、田畔にこぼした涙が花と化したと伝わっています。

田畦に春になると柔らかい葉を芽吹き、河原にも土手にも場所によっては絨毯のように敷き詰めて芽吹く蓬(よもぎ)を、行基さんの薬といつて何にでも使ったそうです。

子供が転んで血を出すと、母親はよもぎを嚼んで唾液といっしょに傷の上に置き、「行基さん行基さん」と唱えて傷の上に押し付けておくと、消毒と血止めをかねるそうです。まじないは「じんじくじんじくとんでつけー」です。

胃の痛みにも効くそうで、よもぎの汁を飲みました。夏に大きくなつた蓬を刈り取り干し、たらいの湯の中に入れ、その中で足湯・腰湯をすると身体芯まで暖まったそうです。

(松原市市政情報室使用インタビューット民話 3、93から引用)